

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	平成28年11月27日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502710-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が安全で安心した生活が送れるよう、ご本人様の希望を聞き、また、ご家族様と相談しながら一人一人の状態に合わせたケアを行っていただけるよう、スタッフで協力し合い対応しています。また、体調管理もしっかり行えるよう、24時間対応で相談、受診、往診が出来るよう医療機関との連携がとれています。そして、スタッフのスキルアップの為、はじめたばかりですが、毎月の勉強会にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く所に掲示し、日々のケアにあたっています。又、新入職員に対しても、理念の説明、理解した上でケアにあたって頂きます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、近くの公園まで散歩し、近所の方や、子供達との交流を増やし、夏祭り開催時は地域の方との関わりをもつようになっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者主催のお祭りでは近くの公園を使用し、地域の方々に向け、介護相談、介護技術の窓口となっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に行い、入居者の日々の生活状況や行事、学習会、行事の報告など細かい話し合い、意見交換を行う事により、サービス向上に取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各書類の記入など不明な点は市、区の担当者に相談したり、保護課の方とも情報交換を行うなど協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全、防犯の為、施錠するが、日中は開いており、自由に出入り出来るようになっています。今後、身体拘束の勉強会等積極的に参加、開催し、理解を深めていきたいと思えます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加が出来ていませんが、今後、勉強会を行い、積極的に研修に参加できるよう調整しながらスタッフ1人1人の知識を高め理解を深めていき虐待防止に努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習を弁護士を招いて知識を学び地域の方々と共に意見交換し、又これらに関する資料をファイルにまとめており、これらを活用出来るよう理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の作成、契約時には必ず読み上げ説明し、疑問点がないかを確認した上で十分に理解と同意を頂いた上でサインを頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では1階、玄関入口、各階の玄関に意見箱を設置、2ヶ月に1度の広報誌にも、意見箱がある事をお知らせするようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回代表者、管理者、職員で会議を行い、職員の意見、提案を開き一緒に検討しながら反映できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各2ユニットの会議に参加し、状況を確認するだけでなく、現場の様子も確認し、状況把握に努めています。又、その都度、環境整備にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を調整出来ず、受けられていないため、毎月1回、ユニット会議での勉強会を定期的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会や管理者会議などに参加し情報交換を行うなどし、ケアの質の向上にいかせるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行いホームの様子を説明し、見学して頂き雰囲気を感じて頂きながら安心して入居して頂けるよう対応に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、希望、不安を確認し、ホームの見学、説明を行いながら、少しでも軽減して頂けるよう話し合いいつでも相談にのれるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、ご家族やご本人の希望、ご本人様の状況の情報を得て、必要なケアを検討し準備を進めます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように家庭的な場所、共に暮らすという雰囲気作りを心掛け、その中での援助であるという事を意識しながら関わっていきけるよう努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも行えるようになっており、その際は生活の様子などを伝え情報の共有をはかり、何か変化があった時も家族と相談しながら対応を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚からの手紙や贈り物に対するお礼の電話かけの援助をするようにしています。又、その都度ご家族への報告も行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や相性を把握し、仲良く過ごして頂けるよう環境を整え、一緒に会話の出来る時間、場所の提供など作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後退去される方がいれば、必要に応じて支援したり、相談を受けたりと対応できるように努めたいと思います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の表情、言動、行動を察知し、性格や生活歴から推測し、出来る限り本人の希望に沿った支援が出来るよう援助しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、関わってきた方々からの情報を集めアセスメントを行い生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態、生活の様子を細めに記録し、食事、排泄、日中から夜間にかけて状況が把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、協力病院の医師や看護師からも意見やアイデアを頂き、月に1度の会議でスタッフ全員で介護計画の内容について話し合い検討を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活が把握出来る介護記録を用い、ケアの実践、結果、評価を記録し情報の共有、計画の見直しにも活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人、家族の思いにそえるようスタッフだけでなく、事業所全体で相談し、取り組めるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事、敬老会、正月行事など、さまざまな行事には地域のボランティアの方に協力して頂き楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力病院はありますが、本人、家族の希望する病院があれば出来る限りの対応はしています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日には訪問看護があり、その都度、看護師に入居者の状況を伝えみて頂いています。又、異常時にや気になる事があればすぐに受診、往診出来るよう対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を細目めに行い状態を確認すると共に、看護師、医師ともその都度、相談を行い情報交換にも努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重症化した場合、終末期ケア対応時の説明を本人、家族と行いサインを頂いています。又、運営推進会議などでも重症化、終末期に関しての話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故時のマニュアルを準備し、いつでも見れるようにしています。又、研修等に参加し、職員間で報告、勉強会も行い対応出来るよう身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防火訓練を入居者さん含め全体で行い、通報や避難の流れを繰り返し行っています。119番通報システム、緊急連絡網、スプリンクラーの設置、見直し、点検も行っています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴を考慮し、何事にも本人を尊重し声掛けにも気をつけるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着た服、その日のした事、飲みたい物など希望を都度聞きながら、それぞれが決定出来るよう声掛けをし、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の大きな流れはあるが、1人1人のその日の状況や状態に合わせ、希望に沿った入浴支援やレク活動、体を休めたい時はゆっくりと過ごして頂けるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服を選んだりしています。家族が持って来られる事も多いですが、好きな服の色、形などを聞いて買物に行ったりもします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル、食器拭き拭きもその人の状況を見ながら行える事は一緒にしています。下膳も積極的に行って頂ける方もおり、楽しく会話をしながら、皆でゆっくと食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分量を記録し必要量が摂取出来るよう把握し、調整しています。献立は職員が作成していますが、魚、肉のバランス、野菜中心に栄養バランスを考え作成します。嚥下状態や嗜好を考慮し、トロミ食、ミキサー食の対応も行います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、歯間、舌用ブラシ、洗口液も兼用し、衛生に努めています。又、状態に変化があれば、歯科の往診に頼み、すぐに対応して頂けるよう連携しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン、チェックシートを利用し、1人1人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っています。感染予防の為、陰部洗浄も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排便表があり、無便時の処置方法や日時が決められています。又、薬だけでなく、乳製品や栄養バランスを考えた献立、運動、歩行練習なども取り入れて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	夕方から夜間は職員の人数が少なく安全面を考え、入浴は行っていないが、日中は希望されればすぐに対応出来るようにし、着替えの準備も一緒にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に強制的な事はなく、1人1人の状況に合わせて、テレビ鑑賞や読書、臥床と自由にゆっくと過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は1人1人分けた入れ物を利用し、日々の薬のセットは必ず2人以上の目で確認します。又、薬のリストを作っている為、1人1人の用法、効能、注意がすぐわかるようにしてあります。臨時薬が処方された時は薬のカゴに貼り紙をし、全員がわかるよう、忘れ防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から、好きな事、やってみたい事などを聞き、レク活動や献立に組み入れ活かしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りは希望にそえるよう努力していますが、個人的希望は家族に伝えており、行事予定に組み入れたりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に管理も出来ませんが、今はいない為、家族に頼まれ職員が管理し、必ずお金の収支も記載しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、事務所の電話をいつでも利用出来るようになっており、その際は職員も家族や友人などとお話しをし、近況報告をしています。手紙の代筆、代読もし居室に電話の設置も出来るようになっていきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはバリアフリーになってあり、歩きやすいように広く、又、入居者の手のふれる所は細目に清掃、消毒を行い、清潔に保たれています。壁には季節の花などを飾り、温度、湿度調節も行い過ごしやすい環境を整えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置されており自由に利用出来るようになっていきます。食堂テーブルやテレビの前には入居者が集まり自由に行き来しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ馴染みの家具や昔の写真、大切にしている物を持ち込んで頂き、冷蔵庫、テレビも設置出来るようになっていきますので、1人1人居心地よく過ごしやすい環境に配慮し表札やのれんなど使用し判別しやすいよう設置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は全てバリアフリーで手すりも壁にそって設置してあります。又、トイレ、台所、1人1人の居室がわかるよう貼り紙などをし、自ら動けるよう工夫しています。		